

No.115
2017/6/28



OPEN オープンユニオン 岐阜大学職員組合ニュース UNION



岐阜大学職員組合発行

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1
Tel. 内線 9552 Fax 058-230-1118
E-mail: kumiai@gifu-u.ac.jp
HomePage: 岐阜大学職員組合 (検索)

公 示

岐阜大学職員組合規約第26条および選挙規定に基づき、
下記の要領で第34期中央役員選挙を実施します。

2017年6月28日
岐阜大学職員組合第33期中央選挙管理委員会
委員長 田中 逸夫

記

立候補受付期間：

2017年7月5日（水）～7月12日（水）正午

立候補届出方法：

中央役員選挙届出用紙に必要事項を記入し、中央選挙管理委員会
（事務局は組合事務室）に届け出ること。

投票期間：

2017年7月19日（水）～7月26日（水）正午

以上

「希望者全員の無期雇用への転換」の実現をめざして

— 4～6月期の活動報告と今後の課題 —

昨年10月から現執行部体制で進めてきた職員組合の活動は、あと3ヶ月で新執行部にバトンタッチされることとなります。すでに選挙管理委員会も組織され、本日(28日)が選挙公示日となっています。

私は、この9ヶ月間の中央執行委員長としての経験について、『全大教新聞 第336号』(2017.6.10)の「わたしもひとこと」欄に、「希望者全員の無期雇用への転換」の実現に向けて」と題して、以下のような小文を寄稿しました。

「定年退職まで3年にして、まさかの中央執行委員長。団交の準備、新勤のビラまき、メーデーの旗手、全国の仲間との交流など、すべてが初体験でした。

専門は教育学。「還暦を過ぎても、人間は成長する」を実感する毎日です。

任期は残すところあと半年。「希望者全員の無期雇用への転換」の実現に向けて、次期の執行部にしっかりと引き継ぐため、奮闘中です。」

この3ヶ月、執行委員長として重点的に取り組んできた課題の一つが、病院勤務のパート職員の「無期雇用への転換」をめぐる問題でした。

本部に対して、「労働契約法の改定等に伴う本学の対応について(案)」(2017.6.10 部局長・部長会)に基づいて、「労働条件通知書(兼同意書)」(2017年4月1日付)の交付にあたって、雇用各部署が当該職員(2015年3月31日以前の採用者)に対して、「①本人からの契約更新の希望あるか」から始まる「契約更新・無期転換フローチャート」に示された手順に沿って誠実に対応することを求めるとともに、各職域の中央執行委員および支部執行部を中心に、それぞれ部局での実施状況を注視してきました。

その結果、ある部局では、事務長の勉強不足(?)による重大な法規違反となりかねないようなお粗末な対応(すぐに撤回)もありましたが、「第1段階」はクリアできた、と判断したのです。

ところが、4月に入って、長年、病院に勤務してこられたパート職員から、「『平成30年3月31日 で契約終了』と記された「労働条件通知書(兼同意書)」に署名・捺印してしまったが大丈夫でしょうか? 今後も継続して勤務することを希望しており、無期雇用へ転換されるのを期待していたのに…」という訴えがあり、早速、聞き取りをしてみると、該当者全員が〈部長からは一切説明がないまま、文書が交わされた〉ことが判明したのです。

早速、記載事項についての説明を本部に対して求めるとともに、他部局で行われた説明内容について確認しました。概ね、次の通り。

〈「平成27年3月31日以前の採用者」については、一旦、平成30年3月31日で契約を終了し、別記(「契約更新 有」)の通り、契約終了前に本人に対し「無期雇用への転換」について希望をあらためて聴いたうえで契約を更新することで、平成31年4月1日から「無期雇用へ転換」となる〉

併せて、本部に対して、「一部部局では、無期雇用の転換はおろか、今年度末に解雇されるのではないかと不安の声が上がっている。各部署局長に対して、『契約更新・無期転換フローチャート』に示された手順に沿って実施できているかの確認をおこない、早急に対応していただきたい」という要望を口頭で伝えました。

そうしたなかで、6月中旬に、病院での「説明会」開催が実現したのです。

次の山場は、年明け後の「希望調査」と「契約更新」です。「希望者全員の無期雇用の転換」の実現は、重点課題として次期執行部に引き継ぐこととなります。

しかし、労働条件・環境をめぐる新たな問題も起こっています。「文系事務一元化」の動き、任期制・年俸制の新採助教の身分・待遇問題、新学部(新学科)創設の動向と教員の貼り付けの変更やそれに伴う昇格問題などです。

これについては、本日(28日)の地留教支部の教研で、岡山大学職組より笹倉さんを講師にお招きし、学習することになっています。

また、軍事研究への岐阜大学の態度についても無関心ではられません。同窓生や学生・院生、市民もその動向に注目しています。学内および県内で開催される講演会等についても、情報を収集し、お知らせをしていきたいと考えています。

これら山積する諸課題に立ち向かうためには、単組の力だけでなく全大教に結集する全国の仲間たちとの情報交換と連携が不可欠です。

折しも、来月（7月）の8（土）～9日（日）の2日間、東京で「全大教」の定期大会が予定されており、私も代議員として参加することになっています。

大会での議論の様子や入手した情報については、次号で報告することにします。

（中央執行委員長 近藤眞庸）

「事務職員部会」報告

むかしむかし、岐大職組にも事務職員部会という部会があったそうな。長い冬眠生活が続く中、この春、常勤の若いタヌキの加入を喜んだ「おじいさん」タヌキは、とても喜びました。このところ、心の折れることが多くて、なにをやるにも気持ちが晴れることがなかったそうで、冬眠中のなかまのタヌキに、そのことをまっさきに報告したそうな。しかしなかまのタヌキたちも、忙しく「余裕」がないのか反応もなく、またも心が「さむく」なりそうになったそうな。



でも、時が流れると、そのうれしい気持ちも薄れてしまうと奮起し、よその村のなかまの様子をうかがったそうな。そうすると、となり村のなかまが、「たいへんだ！」って騒いでいたのがかすかに聞こえてきたそうな。耳を澄ましてみると、「じむ」にとっては「ほうじんか」以上のできごとだ！と騒いでいるのではないかとさ。すぐに「おじいさん」タヌキはこっこの村にも遊びにきておくれましていったそうな。

それから、となり村のなかまと、トントン拍子に話がすすみ、寄合の機会をもったそうな。



『大学設置基準改正から「事務職員」を読み解く』

《話題提供者》名古屋工業大学事務職員

伊井卓生 氏 & 大埜生雄 氏

2017年6月21日（水）18：30～20：00

場 所： 岐阜大学サテライトキャンパス

20：00～24：00 岐阜駅前

「雅 Japo」情報交換会と銘打った歓迎会

というような寄合に集まったのは、となり村のなかまもふくめタヌキ4匹と、キツネが3匹の総勢7匹だったそうな。となり村の若いタヌキは、ほんとうにまじめで、設置基準改正を前向きにとらえ、とおい村のタヌキたちといっしょになり、縦横無尽にかけまわっているようすを話してくれました。つかえるタヌキに必要な「すぎる」を高めるためには、目あてをもち、攻め方を考え、実際にやってみて、その振り返りをするという、「さいくる」の大切さをといてくれたそうな。

「おじいさん」タヌキは、この村は「学問」という「知的宝」を伝え、創ってゆく「こみゆにて



い」であることを忘れてはいかんし、そこを「種」としては！と問うたそうな。原点に帰ってTrainingではなくDevelopmentを求められていることを、思い起してみても？って思ったそうな。

でも気がつくとも、若いタヌキさんの歓迎の寄り合いでは、少しちがった感じになり、とても申しわけなくおもったそうな。そして、日づけのかわった夜道を、反省しながらねぐらにもどったそうな。（おしまい）

（中央執行員 山口利哉）

主催：岐阜大学職員組合

納涼

サマーパーティー2017



- 日にち: 7月26日(水)
- 時刻: 18:00~
- 場所: 第2体育館南(雨天時教育学部1階の講義室)
- 参加費: 組合員500円、
非組合員: 1000円



ビール 酎ハイ ソフトドリンク
バーベキュー 焼きそば 他
家族同伴可、
当日飛び込み参加も歓迎!

連絡先: 岐阜大学職員組合 (内線)9552
kumiai@gifu-u.ac.jp